

平成29年度 子ども育成学部

# 自己点検評価報告書

1. 概要
2. 現況
3. 教育課程
4. 実習
5. 学生生活支援
6. キャリア(資格取得・就職)支援
7. 地域交流・貢献活動
8. 後援会・家庭連絡
9. 研究活動
10. その他
11. 将来構想

平成30年3月  
富山国際大学 子ども育成学部

# 1. 概 要

担当【辻井 満雄】

## 1. 実績と現状

### (1) 学部の理念・目標の達成

富山国際大学は、「時代の潮流に対応できる健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会及び地域社会の発展に寄与する」ことを基本理念としている。2009(平成 21)年 4 月呉羽キャンパスに、少子高齢化時代における地域課題の解決に取組む人材の育成を通して、地域社会に貢献することを目的として、子ども育成学部を設置した。

子ども育成学部が目指す人材像は、教育的愛情と子どもの福祉(幸福)への献身、専門的な知識・技術と豊かな人間性を併せもち、一人一人の子どもの発達を理解し、主体的な活動を促す環境を整えて、子どもの生活・学習・発達を支援していく、資質の高い実践的能力を備えた子ども育成の専門家である。

学部開設 9 年目の平成 29 年度は、学生総数 402 名(定員充足率 121.9%)の最大の学生数になり、総定員を充足して 3 年目になる。平成 29 年度の新入生は 116 名であり、定員超過率 145% であった。

平成 30 年 3 月末には、第 1~5 期生に続いて第 6 期生 102 名が就職・進学など学部での学びを生かして、それぞれの新しい人生を歩み始め、卒業生累計は 488 名となった。

卒業生の成果は、県内の教育・福祉・保育関係者の注目を集め、高等学校・受験生・保護者の期待と評価も次第に高まっている。高い進学ニーズと、もっと人材を輩出して欲しいという地元のニーズに応えるため平成 30 年度から 10 名増の 90 名定員として申請することにした。「富山国際大学の収容定員の増加に係る学則変更」について資料を作成し、学園内の手続きを経て、6 月 16 日付で文部科学省に申請し、文部科学大臣より 8 月 29 日付で認可された。同時に、富山県へ「指定保育士養成施設の定員変更に関する申請書」についても資料を作成し、9 月 27 日付で申請し、富山県知事より 11 月 28 日付で承認された。平成 30 年度より入学定員は 90 名にするが、保育者育成課程の定員は変更せず平成 29 年度と同じ 80 名とした。

平成 30 年度入試志願者数は、247 名(定員 90 名の 2.74 倍)となり、普通科単独校からの志願も増加して、受験生の質も向上した。3 年次編入生も 4 名(定員充足率 80%)であった。

富山短大福祉学科からの編入生が 3 名おり、これからも学園内連携を推進していきたい。

### (2) 教育課程・授業の展開及び教員組織

平成 29 年度は、教養科目の科目区分再編成の下で、4 年次「キャリア支援講座Ⅲ」の選択教科化などを実施した。各学年各分野の授業は、教育課程表に沿って概ね順調に開講された。

教員組織では、専任教員 18 名体制で、事務組織に変更はなかった。教育・保育・福祉の教員が揃った中で、工夫改善された 3 分野の教育が行われた。

また、学生による授業アンケートは、例年どおり前期・後期の 2 回実施した。特に、web を活用して全教科において実施し、各教員の授業改善に生かしてきた。幼稚園・小学校教員免許取得希望者を対象にした「教職課程履修カルテ」及び「チェックリスト」を活用し、教職を目指す学生への指導も実施した。各分野の学外実習の事前・事後指導と実習報告会、卒業研究の中間発表と卒業研究発表会なども、それぞれ改善・充実を図ってきた。

### (3) 学生生活支援・家庭との連絡

学生数の増加に伴う校舎等施設利用の在り方など、学生生活をめぐる要望に応え、キャンパスアメニティを向上させるため、学生代表との懇談会(2回実施)や学友会(全員加入制)との連携にも引き続き努めた。

平成28年度の文科省「私立大学教育研究活性化設備整備費補助金」により、eNetLibeスーパー英語による英語の e-learning システム導入により語学力の向上への改善を行い、平成29年度は学生への普及に努めた。

個別的な学生指導では、適応支援チームを中心に、ゼミ担任・科目担当をはじめカウンセラーなどとも連携しながら、相談支援に努めた。

家庭に向けた学部通信「保護者の皆様へ」(第17報・第18報)の配布、年2回の保護者相談会(6/24(土)、10/21(土))のほか、学生生活や進路についても、適宜個別に家庭(保護者)との連絡を行い、問題が複雑・重篤なケースには、保護者来校による懇談・面接指導を行った。

また、富山国際大学同窓会「蒼昊会」の子ども育成学部支部の第5回ホームカミングデーにも多くの同窓生が参加した。小学校教育研究会では寄付講座(教育)のときに卒業生による事例発表があったが、保育分野、福祉分野での活動は在学生のみに留まっている。

### (4) キャリア支援

キャリア支援については、「小学校教員採用 10名、公立保育士採用 10名、社会福祉士国家試験合格 10名」を目標に、キャリア支援入門講座や支援講座を実施し、キャリア支援担当参事・事務室・分野担当教員・ゼミ担任の連携などにより、強化・充実を図った。

最終的には、卒業生総数 102 名に対して、「小学校教員試験合格 34(既卒者 13 含む)、公立保育士採用 20 名(既卒者 1 含む)、社会福祉士国家試験合格 23 名(既卒者 4 名含む)」の成果を上げることができた。どの分野も、目標値の 2 倍近い成果をあげた。特に、社会福祉士国家試験合格では、既卒者が初めて合格(4名)し、既卒者育成への成果を上げることができた。臨時採用も含めた分野別進路については、「小学校分野 33 名(前年度 28)、保育・幼児教育分野 31 名(前年度 23)、社会福祉分野 16 名(前年度 20)、教育系大学院等進学 3 名(前年度 3)、公務・警察 5 名(前年度 3)、企業 12 名(前年度 10)、その他 2 名(前年度 2)」であり、卒業生の約 8 割が専門分野または関連分野に進んだことになる。今年も小学校分野に進んだ人数が、保育・幼児教育分野を上回り、この傾向は続くと予想される。また、社会福祉士国家試験の合格率は 65.7%(現役合格率は 79.2%)で、全国の平均合格率 30.2% を大きく超え、全国の第 14 位、私立大学の中では 1 位の偉業を達成した。

### (5) 研究

教員の研究活動では、文科省学術研究助成基金(科研費)助成研究 3 件(前年度 5)、(財)富山第一銀行奨学財団研究助成 3 件(前年度 3)などの外部資金を活用した研究に取り組むとともに、研究紀要「子ども育成学部紀要」第 9 卷 14 件(前年度 12)を発刊した。また、学内教員相互の研究交流のための研究交流サロンも 1 回(前年度 1)開催した。

### (6) 地域交流・貢献活動

「子ども育成研究交流センター」の活動として、子ども育成に関するセミナー及びフォーラムの開催(各 1 回)とニュースレター「子ども育成研究」の発行(2 回)、高校及び地域団体等からの要請に対応した出講プログラム 48 件(高校 27、地域 21 : +15)、教育・福祉・

保育現場や団体・行政などからの要請に対応した各種審議会・委員会の委員、講演会・研修会講師、現場実践研究への支援活動など、多様な地域貢献に取り組んだ。

#### (7) 大学改革・教育改革への取組み

全学的な取組みの中で、文科省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+事業)の参加校として採択されたことに伴い、本学が申請していた「地域課題探求型学習を核としたとやま地域創生人材育成プログラム」として平成31年度までの5年間、「地(知)の拠点大学」として認定された。

学部運営体制としては、学部連絡調整会議の開催(9回)及び学部運営委員会の開催(5回)をはじめ各委員会の開催を通して、教職員の目的と情報の共有に努め、教育指導・実習指導・学生指導など学部運営の充実を図った。

今後も、学部自身の責任と自主的な改革により、地域と時代のニーズに対応した教育・研究・社会貢献活動を展開していく必要がある。

## 2. 課題

### (1) 第7期生の高い就職・進学実績の実現

第1~6期生の就職・進学実績は、関係者の間で注目・評価されたとはいえ、その成果に安住しているわけにはいかない。7期生は、高いレベルの学生が多く、小学校、保育・幼児教育、社会福祉の各分野で目標をより高く掲げて、過去6年間の水準を上回る成果をめざしていかなければならない。社会福祉士国家試験で、卒業生11名受験し合格4であった。今後も、卒業生への支援に取り組まなければならない。

### (2) 学部総定員(収容定員)の確保に対応した教育の質の向上

平成29年度の定員超過率145%であったため、今後、4年間は絶対に定員超過率130%を超えないようになるとともに、4年後には定員(370名)充足率を平均1.15未満になるよう定員管理を行わなければならない。

年度	H29	H28	H27	H26	平均
入学定員(人)	80	80	80	80	80
入学者数(人)	116	89	94	101	100
入学定員 超過率	1.45	1.11	1.17	1.26	1.24

平成29年度に統いて30年度においても、学生定員の確保(総定員の充足)を維持することができることとなった。しかし、受験者のレベル向上と富山大学の教育系の受験倍率が下がったことの影響により、辞退者が25名と多かった。そのため、歩留率が低くなり1名だけ超える入学者になった。今後は、人数の多い第9期生への教育の質の向上に向けたきめの細かい指導の継続、高いレベルと考えられている第8・9・10期生に対する教育・指導の充実など教育の質のより一層の向上が課題である。

### (3) 再編された教員組織・事務組織の活動充実

平成30年度当初には、新規採用教員4名を含む専任教員20名の体制である。教員数は昨年より2名増となり充実した指導ができる体制になり、協働体制を強化して臨みたい。全ての学年で定員を超えており、開設時以来の実績を適切に継承・発展させて、学部としての教育力・研究力・社会貢献力をさらに高めていかなければならない。

## 2. 現況

担当 [堀江 英一]

### 1. 学生の状況 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

	在籍者数	内訳(1) 男:女	内訳(2) 出身県								
			富山	新潟	石川	福井	岐阜	愛知	山形	茨城	神奈川
1年生(定員 90 名)	116 名	22 : 94	113		2	1					
2年生(定員 80 名)	87 名	19 : 68	81	5	1						
3年生(定員 80 名)	92 名	23 : 69	86	2	2		1			1	
4年生(定員 85 名)	102 名	28 : 74	96	2	1	1			2		
計(定員 330 名)	372 名	89 : 283	348	9	5	2	3	1	2	1	1

(参考) 平成 26~30 年度入試の状況

	募集人員	志願者	合格者	入学者	備考
30年度入試	90名	247	177	91	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	4	4	4	3年次編入学
29年度入試	80名	265	195	116	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	4	4	4	3年次編入学
28年度入試	80名	229	188	89	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	6	4	4	3年次編入学
27年度入試	80名	259	174	94	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	8	6	6	3年次編入学
26年度入試	80名	248	188	101	推薦・一般・特別奨学生・センター試験利用型
3年次編入学	5名	4	4	4	3年次編入学

### 2. 教員組織 (平成 29 年度)

区分	人数	内訳
子ども育成学部専任教員	20名	教授 9 准教授 6 講師 5
学園内教員(兼任・兼任)	15名	現代社会学部 3 富山短大 12
学園外教員(非常勤講師)	36名	
計	70名	

### 3. 吾羽キャンパス事務室 (平成 29 年度)

区分	人数	内訳
専任事務職員	3名	事務長 1 主査 2
兼任職員(短大)	2名	図書館 1 健康管理センター 1
契約職員	2名	参事(キャリア支援担当) 1 職員 1
計	7名	

### 3. 教育課程

担当【大藪 敏宏】

#### 1. 実績と現状

##### (1) 新規の取組み

- ① 富山国際大学ハラスメント研修会・講義  
講師：後藤智、彼谷環（平成 29 年 4 月）
- ② 全学 FD・SD 研修会 日本私立大学協会教務部課長相当者研修会報告及び ALL 富山 COC+（平成 30 年 2 月）  
【報告 I】教務部課長相当者研修会 概要報告（大藪敏宏 学務部次長）  
【報告 II】COC+事業進捗状況報告（地域連携推進コーディネーター 水間 秀光）

##### (2) 教育指導

- ① 授業科目の履修指導・前後期末試験・再試験の実施
- ② 教養演習：(1・2 年共通) 初年次教育（平成 29 年 4 月）リテラシーガイダンス（平成 29 年 4～5 月）、ゼミ別活動合同発表会（平成 29 年 7 月）、個人研究ゼミ発表（平成 29 年 10 月～平成 30 年 1 月）
- ③ 卒業研究：(3 年) 中間発表（平成 29 年 10/21～11/2）  
(4 年) 卒業研究発表会（平成 30 年 2/10）
- ④ 地域社会参加活動：(1 年) 20 時間以上の地域活動体験、活動報告会、活動報告集
- ⑤ 富山県私学祭出品：32 点（1・2 年：美術 58 人）出品（平成 29 年 11 月：富山県高岡文化ホール）
- ⑥ 学外施設等を利用した授業：

授業科目	開講時期	利用施設等	実施日
日本の動き	1年前期	北日本新聞社(越中座)	29. 5/25(木)
図画工作	1年前期	射水市大島絵本館	29. 6/29(木)、7/ 6(木)
地域社会参加活動	1年通年	県総合運動公園陸上競技場(障害者スポーツ大会)	29. 5/21(日)
子ども文化	1年後期	富山県こどもみらい館	29.10/ 25(水)
自然体験活動	1年通年	富山市ファミリーパーク	29. 7/19(金)
		呉羽青少年自然の家	29.11/18(水)、30. 1/12(金)
		富山県中央植物園	29.11/15(水)、11/22 (水)
保育内容（環境）	2年前期	富山市・射水市の公園	29.4/19 (水)～5/2 (火)
体育	2年後期	富山県総合運動公園陸上競技場	29. 8/23(木)、8/24(金)
		富山市民プール	29. 8/21(火)、8/29(水)
図画工作科教育法	2年後期	富山県美術館	30. 2/20(火)
保育内容(造形表現)	3年後期	富山県美術館	30. 2/ 2(金)
卒業研究Ⅰ・Ⅱ	3～4年通年	本江ゼミ（3年）割山森林公園天湖森	29.10/ 7(土)～ 8(日)
〃	〃	辻井ゼミ（3・4年）キラリホール	29. 7/8(土)
〃	〃	本江ゼミ（3年）氷見海浜植物園	29.10/ 8(日)
〃	〃	本江ゼミ（4年）富山県民会館(JPIC 読みきかせサポート実践講座 2017 年度、一般財	29. 9/ 9(土)

		団法人出版文化産業振興財団主催)	
〃	〃	松山ゼミ（3年）姫路城、彦根城	30.3/14(水)～15(木)
卒業研究Ⅰ・Ⅱ（公開授業見学）	〃	富山市立堀川小学校	29.6/3(土)
〃	4年	射水市立新湊南部中学校	29.6/8(木)
〃	〃	砺波市立砺波東部小学校	29.10/27(金)
		南砺市立福野中学校	29.11/21(火)
		射水市立太閤山小学校	30.1/25(木)

⑦ 授業改善の取組み：授業アンケートの実施（前・後期末2回）

[後期は平成28年度において初めて全科目実施]

⑧ 平成29年度「入学前オリエンテーション」の実施（平成29年12月 呉羽キャンパス）

[推薦入学予定者33名、3年次編入生4名]

(3) その他 ☆<新規>

平成29年度大学コンソーシアム富山による「学生による地域フィールドワーク研究助成」事業にて「優秀賞」を受賞した。

研究題目：「子ども食堂」の新たなニーズに関する調査研究～学習支援という新たな付加機能に焦点を当てて～

助成金額：175,000円

対象地域：滑川市、富山市、射水市、高岡市、氷見市

実施主体：富山国際大学SSW・BBS研究会（顧問：村上満、代表：山岡真奈実）

年月日：平成30年2月27日

## 2. 課題等

(1) 教養演習の運営方法、活動内容

前年度同様、1年生のゼミ配属は、出身高校が重ならない、男子学生が1名だけにならないよう配慮し、2年生についても、1年次の教員・学生と重ならないよう配慮した。また、病気に罹患したり欠席したりしがちである要配慮学生を一部のゼミに偏らないよう配慮した。自校教育については、前年度同様、4月の教養演習（第2回目）において、「【初年次教育】学長特別講義『富山国際大学の歴史と基本理念』」（1年生全員）として実施した。

また、ゼミ別共同研究に入る前の【リテラシーガイダンス2】として、大平講師の「統計学の初步」や大藪准教授の「倫理的な問題」についての講義により、研究を進める上の指導強化を図った。

なお、平成29年度後期より、グローバル化社会に向けた教養教育の一環として「海外体験発表会」を新規企画し実施した。当日は、福島教授のアドバイスのもと、1～4年生までの学部生、東黒牧キャンパスの留学生など8名が発表し、フロアからは「他国への偏見が薄らいだ」「挑戦してみようと思った」等の感想があり、今後も2年間のサイクルで、ある程度のバリエーションが出るように企画・実施する方向となった。この企画を可能にするため、ゼミ別研究は前期で完結することとし、大学祭での掲示は行わないこととなった。

(2) 卒業研究の運営方法、活動内容

今年度から、3年生は10月の大学祭からの1週間に中間発表を行うこととした。4年生は、中間発表をとりやめ、2月実施の卒業研究発表会に力を注ぐこととなった。また卒業

論文提出時期を12月にして、社会福祉士国家試験対策に時間を確保できるようにした。

今年度の卒業研究発表会は、4教室の各会場を、小学校教育分野、幼児・保育分野、社会福祉分野、総合分野に分け、各ゼミ（4～5ゼミ）をバランスよく配置した。くわえて、大学祭時期には、4年生が中心となり所属ゼミを紹介するホスターを製作展示した。

### （3）韓国異文化研修の実施

韓国異文化研修はJASSO（独立行政法人日本学生支援機構）の海外留学支援制度（協定派遣）に採択（プログラム名「韓国での地域課題解決基盤創造キャンプ」）され、9月と翌年3月に約2週間実施した。慶尚北道慶山市、ソウル市に所在する協定校3校（大邱大学校、大邱韓医大学校、聖公会大学校）の学生とのキャンプ、フィールドワーク、授業参加などを中心に実施した。子ども育成学部の学生は9月研修が4名、3月研修が2名（内、1名は9月研修も参加）、計5名参加した。

### （4）タイ異文化研修および国際交流実習

タイ異文化研修は8月15日～9月2日まで実施し、子ども育成から1年生4名が参加した。ナーン県にあるサットリーシーナーン学校からの依頼を受け、日本語学科の高校生50名と日本語one day キャンプを行った。午前中は高校生の案内でナーン市内の観光名所を巡り、生徒が日本語で説明する機会を設けた。また、午後は本学の学生たちが、日本紹介と浴衣、習字、遊び、福笑いなどの日本文化体験をする機会を4つのブースに分かれて提供した。研修の大半はナーン県ファイユアック村に滞在し、村の環境整備や子どもたちへの食育活動などを行った。参加者にとっては教育・福祉面での気づきの場となった。

国際交流実習は3月2日～16日まで行い、子ども育成から1年生3名が参加した。主にファイユアック村で食育に関するボランティア活動を中心に行った。食育に必要なピザ窯と燻製窯を村の人々と作り、それを使ってピザ及びナンづくり講習会数回行った。作業の合間にモン族の幼稚園を訪問し、村の子ども達とボールプレイなどを楽しみながら専門性を磨く機会とした。

### （5）海外への研修を伴う授業科目が抱える課題と今後の展開

今年度の「異文化研修」（1・2年次開講、2単位）は、レスブリッジ大学（カナダ・アルバータ州）との協定により、昨年度に引き続き2回目のカナダ研修を実施した。参加人数は順調な推移を見せており、今年度は1年生9名、2年生2名、3年生1名、計12名が参加した。昨年と同様、多くの学年で実習のある夏季休暇期間を避け、3月の初～中旬（3月2日～3月15日の計14日間）に実施した。カナダでは、子ども育成学部の学生らしく明るく、活発に活動したので、昨年度と同様にレスブリッジ大学でもバンクーバーでお世話になった旅行社の方達からも好評だった。課題としては、レスブリッジ大学の学生達との交流を研究交流にまで発展させることと、帰路のバンクーバーでの見学箇所をさらに工夫することである。他のプログラムに関しては、留学プログラム（「インターナショナルプログラムズ（長期）」と「同（短期）」への参加者はいなかったが、代わりに、韓国研修とタイ研修と海外インターンシップも合わせて、合計25名の学生が海外を体験し、視野を広げ、国際性の涵養に努めた。

### （6）特色ある教育プログラム「副専攻プログラム」の開設と今後の展開

全学的に、上述の「グローバル人材育成プログラム」のほか「地域創生人材育成プログラム」も今年度から開設した。それに伴い、今年度はじめのオリエンテーションにおいて

「副専攻プログラム」の説明リーフレットを配布したうえで、年度はじめに「副専攻プログラム」説明会を実施した。海外のインターンシップが地域創生人材育成プログラムでも活かせるかなど、実施に伴って詳細な施行細則を整備しながら、広い視野をもってグローバル世界および地域社会で活躍できる人間の育成に向けた展開に取り組んでいる。

## 4. 実習

担当【室林孝嗣】

### 1. 実績と現状

#### (1) 実習の取り組み状況

- ① 「幼稚園教育実習Ⅰ」：8カ所 87名（H29.11）、報告会（H29.12）
- ② 「幼稚園教育実習Ⅱ」：17カ所 27名（H 29.9）、報告会（H29.12）
- ③ 「保育所実習Ⅰ」53カ所 55名（H 29.9）、報告会（H29.10）
- ④ 「保育所実習Ⅱ」50カ所 51名（H 29.6）、報告会（H29.9）
- ⑤ 「施設実習Ⅰ」：30カ所 56名（H 29.11、1班体制）、報告会（H29.12）
- ⑥ 「施設実習Ⅱ」：6カ所 7名（H 29.6）、報告会（H29.9）
- ⑦ 「小学校教育実習」：53カ所 65名（H 29.9）、報告会（H 30.1）
- ⑧ 「介護等体験」（小学校教員免許関連）：社会福祉施設 48ヶ所（5日間）+特別支援学校 11カ所（2日間）64名（H 29.6～H29.12）、報告会（H30.2）  
※補足：平成28年度より介護等体験の履修を2年次から3年次へ変更になり、昨年度は編入生2名のみが実施。本年度が介護等体験と小学校教育実習を制度上本格的に実施する最初の年に当たる。
- ⑨ 「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」：11カ所 22名（H30.2～3）
- ⑩ 「スクールソーシャルワーク実習」：小学校2カ所・生活保護受給世帯5カ所5名、やわやわカフェ（H29.5～12）、報告会（H30.2）
- ⑪ 「富山に学ぶインターンシップ」：50カ所 52名（H29.6～12）、報告会（H30.1）

#### (2) 実習指導センター会議の開催

実習指導センター会議を5、8、9、10、3月に開催し、実習履修要件抵触者の検討及び対応・経過を確認するとともに、各実習の課題等を協議した。

- ① 履修延期者…幼稚園教育実習Ⅰ（4名）、保育所実習Ⅰ（1名）
- ② 実習履修の変更希望や実習未実施の学生がいることから、その評価等の基準を明確にした。

＜実習科目履修の評価＞

履修登録済みの学生	実習科目評価	備考
実習実施	実習先の評価に基づく	
実習未実施	欠（入力コード：999）	依頼状送付後の場合、実習先に「実習依頼の取り下げ」（文書）を送付

※実習履修登録の変更は、履修変更期間のみ。

## 2. 課題

#### (1) 健康不安学生等への対応

健康不安学生等が増加傾向にあることから、その対応を検討する。

#### (2) 入学者増に伴う実習先の確保

入学者増に伴う実習先の確保が難しくなってきている。各部会でその対応を検討する。

#### (3) 実習指導センターの充実

年間11実習に関する様々な手続き等を行う実習担当職員の配置を希望する。

## 5. 学生活動支援

担当【松山 友之】

### 1. 実績と現状

#### (1) 新規の取り組み

- ① 大学祭における3年生の卒業研究中間発表、ゼミ紹介等を含む展示内容の工夫と改善
- ② 大学祭の模擬店の食品衛生と安全対策に関する短大との連携の強化
- ③ 大学祭の学生主体の模擬店運営のための会計等のシステムの改善
- ④ 学友会主催の3月の音茶会を「なごみ会」とし、地域のスマイルクラブのみなさんとの交流の深まり
- ⑤ 大学周辺の地域清掃活動(通年)の、学友会による学生のボランティア活動としての取り組みの定着
- ⑥ 「軽音楽」、「歩いて発見！となみ野サマーチャレンジサークル」という新しい2サークルの創設による、サークル活動の活性化
- ⑦ スポーツ文化交流会時の呉羽キャンパス清掃の廃止等、行事の見直し

#### (2) 現状 (1=1年生、2=2年生、3=3年生、4=4年生)

- ① 学部交流会 (1234) アルビス小杉総合体育センター (H29.4)
- ② オリエンテーション交流合宿 (12) 研波青少年自然の家、(H29.4)
- ③ スポーツ文化交流会 (1234) 東黒牧キャンパス(運動系・文化系)、(H29.6)
- ④ 学友会の運営支援 (1234)  
    総会 (H29.4)、七夕祭 (H29.7)、オープンキャンパス (H29.7・8)、  
    クリスマス会 (H29.12)、音茶会「なごみ会」(H30.3)
- ⑤ 大学祭実行委員会の運営支援
- ⑥ 大学祭 (第9回仁友祭) の開催 (H29.10)  
    テーマ：「魅～ひとりひとりの輝く花を咲かせよう～」  
    卒業研究中間発表 (3)、卒業研究ゼミ紹介 (4)、各実習紹介 (1234)  
    各サークル企画イベント (1234)、模擬店 (1234)
- ⑦ クラブ・サークル活動への支援 (1234) 運動7・文化15 計22サークル  
(運動系) 女子軟式野球 (短大と合同)、SPORTY、ダンス、バスケットボール、  
    バドミントン、バレーボール、フットサル  
(文化系) 吹奏楽部、アカペラ、イラスト、SSW・BBS研究会、演劇、書道、  
    Tuins English Club、TIES (富山国際大学小学校教育研究会)、  
    保育サークル～にこにこ～、東日本大震災復興支援サークル「へそ」  
    学生団体 MUL、I・C・S、茶道、軽音楽、  
    歩いて発見！となみ野サマーチャレンジ (H30.3現在)
- ⑧ 「夢への架け橋事業」への応募・実施 (1234) 5件  
    ア 限界集落支援事業 (5年目) (助成額 150,000円)  
    イ 耕作放棄地の有効活用に向けての大学生の活動 (助成額 100,000円)

- ウ World Friends in Toyama (助成額 115,000 円)
  - エ 科学実験教室・自然体験ボランティア活動 (助成額 90,000 円)
  - オ MUL ごと体験教室(助成額 60,000 円)
- ⑨ 富山国際学園関連施設 (みどり野幼稚園、にながわ保育園) での継続的ボランティア活動の実施
- みどり野サポーター (2) 2名、(3) 17名、(4) 5名 計 143回
  - にながわサポーター (34) 39名、計 7回
- ⑩ 学友会との懇談会 (学友会と教職員) 2回実施 (H29.6、H29.12)
- ⑪ カウンセリング及び適応困難学生のための適応支援チーム：隨時実施
- ⑫ 防災訓練 (1234) (H29.9)
- ⑬ 交通安全講習会 (1234) (H30.2)

## 2. 課題

### (1) 学生駐車場不足の問題

今まで同様に、学生の駐車場については少ない状況が続いている。民間の駐車場の利用も含めようやく駐車が可能な状況にある。さらに平成 29 年度末から、みどりの幼稚園の改築工事が始まり、短大、大学ともに駐車場不足が不足している。特に授業時間の関係で一時的に駐車できないこともある。慢性的な駐車場不足への対応が望まれる。

駐車許可証の発行については、正当な理由なく説明会に遅れた場合には配布しないこととなっているが、数名が期日に間に合わず、駐車許可証が発行されないケースがあった。今後もこのルールは徹底するとともに、加えて駐車のマナーの徹底が求められる。

### (2) 旧 8 号線店舗前バス停の行列問題とバス乗車マナーの問題

地域の飲食店舗前にあるバス停を利用する本学園生（高校生・短大生・本学部生）が夕方の店舗の繁忙時間帯にバス待ちの行列が店舗駐車場の入口を塞いでいることへの苦情があった。この状態の改善のために、教職員が指導を行うことになった。学生の状況としては、教員等がいる場合は、ルールを守って並んでいる状況である。今回、地鉄バスとの協議によって大学前のバスが増便されることから現在のような問題が減ることを期待したい。

### (3) 学友会会計及び大学祭会計の改善と業務の簡素化

例年、会計の処理は適切に行われてきたと考えられるが、学友会が予算を執行して自主的に運営するまでには至っていなかった。この問題を解決するため、学友会会計を中心に学友会と大学祭の会計の費目の整理と統合、領収証等の整理及びファイリングなど改善に取り組んだ。平成 30 年度の予算からは根拠のある予算を立てることができ、学生によって執行及び決算を得る作業が行える環境が整った。今後は学生が自主的に会計を運用し、有効に予算を執行できるよう工夫と改善が望まれる。

大学祭の模擬店運営について、今まででは大学祭期間中の模擬店の収益の確認作業を学友会の会計担当者が行っていた。非常に煩雑で多忙を極めたという指摘があり、業務の簡素化に取り組んだ。そこで平成 29 年度から各模擬店に会計担当者を設け、模擬店毎に適切な会計の処理を行うようにシステムを変更した。初年度ではあったが、十分に機能し、適切に会計処理が行

われた。このように学生主体の活動となるように業務の簡素化も含め工夫改善を怠らないことが求められる。

#### (4) 学友会による大学周辺の学外地域清掃活動

平成 27 年度から始まった大学：5、7、11、1 月、短大：3、6、10、12 月、高校：4、8、9、2 月、各月 3 回、計 12 回ずつの学外地域清掃活動については学友会執行部だけでなく、1~2 年生全員で、ゼミ単位で対応することとなっていた。しかし、授業時間にかかる場合やゼミ担当教員の参加など問題が指摘された

そこで平成 29 年度からは、学友会による学生のボランティア活動として明確に位置付け、ゼミ単位として学生間で相談し、日時を決めて実施した。その結果、学生の活動として定着するとともにゼミ担当教員の負担も軽減された。今後、地域清掃を行うボランティア活動の意義やできるだけ全員の参加を促すなど学友会としての働きかけがさらに求められる。

#### (5) 学友会の改善

学友会は本学の教育理念・目標等に基づき、健全な学校生活と学生相互間の親睦を図るために学生が組織していることを理解し、より多くの学生の参加を促してきた。平成 28 年度の音茶会は参加者も少なく低調だった。その反省に立ち、平成 29 年度の音茶会は、学友会の役員の交流を深めたいという思いから「なごみ会」と名称を変更し、地域のスマイルクラブのみなさんとの合唱や話し合う時間を設けることで交流が深まった。また、地道な働きかけによって学生の参加者も増え、実りの多い活動になった。このように学友会が中心となって行事の工夫と改善に取り組み、学友会活動の意味を学生に伝え、地道な活動を重ねることが重要であることが分かった。

## 6. キャリア（資格取得・就職）支援

担当【彼谷環】

### 1. 実績と現状

#### (1) キャリア支援計画

1年次から4年次までのキャリア関連講座を分野（小学校教育、保育・幼児教育、社会福祉、一般企業）ごとに立案・実施

正規科目として、今年度、新たにキャリア支援講座III（4年・通年）を開講した。既に、単位化されているキャリア入門講座（1年・後期）は、現場の専門家による特別講義を開催（小学校分野(1/15)・保育分野(12/12)・社会福祉分野(12/21)）。キャリア支援講座I（2年・通年）及びキャリア支援講座II（3年・通年）も分野ごとにシラバスを作成、実施した。

#### (2) 就職状況の周知

学生には就職活動状況を、教員にはゼミ生の就職状況をその都度キャリア支援センターに報告することとし、毎月教授会等で就職状況を全教員に周知した。

#### (3) 資格・免許希望調査

キャリア支援講座Iの分野希望及び資格・免許履修の確認をした（H30.2）。

#### (4) 公務員・教員採用試験対策講座：呉羽キャンパスにて6日間実施（H30.3）

#### (5) 模擬試験の実施：

小学校教諭希望3年生対象（一般教養・教職教養・専門教養 H29.6/13）

幼稚園教諭・保育士・保育教諭希望3年生対象（一般教養・教職教養 H29.5/30、専門教養 H29.6/6）、4年生対象（一般教養・教職教養 H29.5/18、専門教養 H29.5/25）

社会福祉士希望3、4年生対象（中央法規 H29.8、日本社会福祉士会 H29.10、ウィネット H29.5/25）

#### (6) 幼保分野の就職に関する懇談会

① 日時：平成30年2月26日（水）13:30～14:30

② 場所：富山国際大学呉羽キャンパスE棟会議室

③ 参加者：富山県保育連絡協議会・小島伸也会長、富山県私立幼稚園・認定こども園協会・畠山遵会長、富山県民間保育連盟・風間宣夫会長、富山県子育て支援センター連絡協議会・柳溪暁秀会長、富山県保育士・保育所支援センター・和多和子保育士就職コーディネーター、富山県厚生部子ども支援課・川口恭子班長、田近貴代主査、松木憲唱主任、富山市こども家庭部こども支援課・前坪勝児副主幹、富山国際大学子ども育成学部教員（計19名出席）

#### (7) 各分野の採用状況・採用試験問題等の整理

今年度の小学校教員・幼稚園教諭・保育士・社会福祉士の採用状況及び受験状況を各市町・事業所ごとにまとめ、面接・筆記試験等の内容を整理した。

#### (8) 福祉のお仕事フェア in TOYAMAへの参加

富山国際会議場にて、福祉・介護分野（H29.7/9、7/16）では4年生16名の学生が、児童分野（H29.7/30）では4年生18名の学生が参加した。その後、メール、葉書、電話での勧誘が頻繁だったため、来年度の参加の仕方を検討することとなった。

#### (9) 学内合同企業説明会への参加

東黒牧キャンパスで行われた「学内合同企業説明会」に、一般企業を希望する学生計8

名が参加した（H30.3/8、3/12）。

#### （10）自主研修

将来の進路に備え自主的に研修を行う「自主研修」の学年別内訳は、4年生（1名）、3年生（8名）、分野別では、小学校分野（1名）、幼保分野（1名）、福祉分野（7名）であった。

幼保分野における昨年度23名からの減少は、正課科目「富山に学ぶインターンシップ」の履修者が増えたことが理由だと考えられる。各研修の目的にあわせた指導が今後も必要になろう。

#### （11）その他

小学校で理科実験の準備や後片付け等を行う「観察実験アシスタント」に、4年生（2名）、3年生（5名）、2年生（6名）、1年生（13名）の計26名が登録、のべ28名が勤務した。

また、砺波市庄西中学校学習支援ボランティア（放課後学習会）や夏休み学習支援スタッフ、高岡市中学校土曜学習支援員、射水市学力向上対策事業における学生講師（中学生夏休み補充学習や土曜塾）として活動した。

## 2. 課題

今年度からキャリア支援講座Ⅲが開講され、1年から4年までの連続的継続的なキャリア支援体制が整った。幼保分野は採用試験日程・試験内容が学生によって違うため、当該科目のシラバス内容については検討が必要である。

特定分野を対象とした就職説明会においても、異なる分野の専門職が関与できるものが複数あることがわかったため、今後は分野横断的な指導や教員間の連絡をとる必要がある。

次年度の就職懇談会は小学校分野を、また、全学的に開催される「企業・事業所・大学講演会」では子ども育成学部が講師選定を行う予定である。いずれも早期準備が肝要である。

## 平成29年度卒業予定者（102名）の進路状況（平成30年3月20日現在）

小学校教育分野 33 小学校教諭・講師	保育・幼児教育分野 30 保育士・幼稚園教諭	社会福祉分野 17 社会福祉士・相談員等
富山県公立学校教員 (小学校) 19	富山市保育士 8 射水市保育士 3 高岡市保育士 2 小矢部市保育士 魚津市保育士	[県市町] 富山県社会福祉士 富山市社会福祉士 立山町社会福祉士
山形県公立学校教員 (小学校) 1		[社会福祉協議会] 砺波市社会福祉協議会 南砺市社会福祉協議会 上越市社会福祉協議会
富山県公立学校講師希望 12 福井県公立学校講師希望 1	富山市恵光学園 2 わかくさ福祉会 2 あおぞらこども福祉会 富山城南会 射水万葉会	[障害者施設・事業] セーナー苑 4
公務員等 5		
上市町職員 富山大学職員 立山青少年自然の家（非常勤）2		

呉羽青少年自然の家（非常勤）	いみず苑（保育士） 高岡愛育園（保育士） 鷹寺学園 小百合学園	いみず苑
企業等 12		[高齢者施設・事業] 大山福祉会 戸出福祉会 高岡南福祉会
燐化学工業 3		[病院] 富山県福祉総合センター・ 県リハビリテーション病院 富山赤十字病院 呉陽病院（看護師）
サンテンコーポレーション	黒部市保育士（嘱託） 2	
富山市農業協同組合	朝日町保育士（臨時）	
富山第一銀行	小矢部市保育士（臨時）	
スピードリンクジャパン		
インテック		
ウォーライト		
富山県漁業共済組合		
大阪屋ショップ		
特定非営利活動法人 F-site		
進 学 3	家事・その他 2	
上越教育大学大学院 2		
富山大学大学院		

### ■主な試験等の結果（既卒者含む）

富山県公立学校教員（小学校）32名合格（うち既卒者12名）

山形県公立学校教員（小学校） 1名合格

山口県公立学校教員（小学校） 1名合格（既卒者）

富山県内市町村保育士 20名合格（うち既卒者1名）

### ■複数免許・資格の取得（予定）

#### （1）1人当たりの法定免許・資格（小・幼・保・社（受験資格））取得数：

4種類=3名 3種類=39名 2種類=32名 1種類=24名 無=4名

#### （2）資格・免許取得のべ数：

- \* 小学校教諭一種免許状： 63名（61.8%）
- \* 幼稚園教諭一種免許状： 70名（68.6%）
- \* 保育士資格： 58名（56.9%）
- \* 社会福祉士（国家試験受験資格）： 26名（25.5%） うち合格者19名（受験者24名）
- \* 社会福祉主事任用資格： 100名（98.0%）
- \* スクールソーシャルワーク教育課程修了： 6名（5.9%） うち認定者5名

## 7. 地域交流・貢献活動

担当【仲井 文之、南 佳克】

### 1. 実績と現状

#### (1) 第9回子ども育成フォーラムの開催

- ・テーマ： 主体的学びの時代の子どもと教師
- ・趣旨： 第9回の子ども育成フォーラムでは、主体的学びの時代を背景として教師の在り方に焦点を当てた。

教育の基本的立場として、子どもの主体性を育むべきことは当然とされる。現行の幼稚園教育要領・小学校学習指導要領では子どもたちの「生きる力」を育むため、遊びや学習に主体的に取り組む態度の育成が必要とされる。次期小学校学習指導要領では、授業改善のために「主体的・対話的で深い学びの実現」が謳われている。一方、少子高齢化や共働き家庭の増加等、子どもを取り巻く環境も変化しており、保育所、幼稚園、認定子ども園、小学校に対する要望・要求も様々である。こうした状況の中にあって、教師はいかに自らのリーダーシップを發揮していくべきか。今回のフォーラムでは、学級経営に詳しい専門家を招き、児童生徒の主体性を大切にした学級経営、保護者・地域との連携等を学ぶ機会としたいと考えた。

- ・開催日時： 平成29年7月2日（日）午後1時30分～4時10分
- ・開催場所： 山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟（E館）701～704号室
- ・参加者数： 約230名（教育・保育・福祉関係者、一般市民、学生など）

#### (2) 子ども育成学部第9回公開セミナーの開催

- ・テーマ： 「考え方！子どもの人権～子ども育成の現場でできること～」
- ・趣旨： 近年、地域における各家庭の結びつきの弱体化や、地域の教育力の低下が指摘されている。子どもたちに関わる現場（保育所・幼稚園・学校・福祉施設等）では、共働き家庭や非正規雇用の増加等で親子間の関わり方にも変化がみられ、それが、子どもの育ちにも影響を与えていると指摘をされている。

このように、子どもたちを取り巻く社会環境や生活環境が大きく変化している中で、子ども育成の現場で働く者は何ができるのか、一度子ども育成の関係者の間で共に考えてみようというのが本セミナーの趣旨である。

第一部では、日々子どもたちやその家族と接する二人の講師から、子どもたちの周囲で実際に起きていること、これまでとは違ってきてると感じること等についてお話を伺った。二部では、現場での子どもたちへの接し方や自らの働き方についてフロアーを巻き込んで協議が行われ、現状と課題を見つめなおす契機となった。

- ・開催日時： 平成29年11月26日（日）午後1時30分～4時15分
- ・開催場所： 富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟（E館）701～704号室
- ・参加者数： 約140名（保育・教育・福祉関係者、一般市民、学生など）

### (3) 高校出講プログラム（平成29年5月～平成30年3月）

4年制大学への進学に向けてのモチベーションを高めることに貢献しており、高校の授業で行われていない内容であるため、より高度でアカデミックな講義を高校生に触れさせる機会となっている。依頼校の要請に応じて行うので、福祉や教育について広く教養を伝えることを旨とし、テーマについて大学知を伝えられたという点で意義があった。

高等学校を対象として、次のような出講プログラムを実施した。

名前	日付	依頼元	講義名等
辻井 満雄	2017年5月17日	富山県立南砺福野高等学校	進路ガイダンス（子ども育成学部の特色について）
	2017年7月7日	龍谷富山高等学校	進路ガイダンス（子ども育成学部の特色について）
	2017年10月18日	岐阜県立飛騨高山高等学校	進路ガイダンス（子ども育成学部の特色について）
	2017年12月7日	富山県立氷見高等学校	進路ガイダンス（子ども育成学部の特色について）
仲井 文之	2017年9月28日	富山県立高岡西高等学校	高校出講プログラム
	2017年12月15日	富山県立八尾高等学校	学部学科研究会
福島美枝子	2017年12月12日	富山県立新湊高等学校	特別授業「若者の異文化体験と英語の学び方」
水上 義行	2017年6月6日	南砺市教育委員会	平成29年度第1回南砺市ICT活用遠隔協働学習実証研究委員会
	2017年6月30日	富山市教育委員会	平成29年度第1回富山市学校給食の民間委託に関する懇話会
	2017年9月8日	射水市立小杉小学校	講演会
	2017年11月10日	南砺市教育委員会	南砺市ICT活用遠隔協働学習実証研究事業
村上 満	2017年6月5日	富山県立八尾高等学校	“やさしい”福祉学のすすめ
	2017年6月20、27日、7月4、11、8日	富山県立富山いづみ高等学校	専攻科看護科 「社会福祉（生活保護・障害者福祉）」講義
大藪 敏宏	2017年6月29日	南原繁先生来県百周年記念顕彰会（第1回準備会）	講話「戦後日本の礎石は射水にあり」
	2017年7月24日	南原繁先生来県百周年記念顕彰会（第2回準備会）	講話「自由な民とともに自由な土地に～ゲーテと南原繁～」
	2017年9月13日	南原繁先生来県百周年記念顕彰会（設立総会）	講話「千二百年を越える越中歌壇の奇跡～大伴家持と南原繁～」
	2017年9月29日	富山県立小杉高等学校校長	南原繁来県百周年シンポジウム「戦後日本の礎石を置いた人」パネリスト
堀江 英一	2017年9月16日、10月28日、2018年1月27日	富山県立高岡高等学校	合唱部合唱指導
吉田 昌弘	2018年1月30日	富山県立高岡南高等学校	平成29年度高大連携未来を拓く人材育成事業（特別授業）
竹田 好美	2017年6月15日	富山県立桜井高等学校	施設実習オリエンテーションの講師
	2017年12月12日	富山県立新湊高等学校	特別授業「身近な素材・材料でおもちゃを作ろう」

### (4) 地域出向プログラム（平成29年5月～平成30年3月）

名前	日付	依頼元	講義名等
水上 義行	2017年6月30日	平成29年度富山県高等学校教育研究会公民部会講演会	「主権者教育」について
	2017年6月3日	富山県呉羽青少年自然の家	平成29年度富山県呉羽青少年自然の家ボランティア養成講座
	2017年8月17日	富山県立イタイイタイ病資料館長	イタイイタイ病資料館活用研修会
	2017年12月13日	富山県知事	平成29年度富山県立イタイイタイ病資料館運営会議
	2017年12月19日	一般社団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会	神通川清流環境賞の選考委員会
	2018年1月9日	一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会	神通川清流環境賞第1回作文コンクール選考委員会（作業部会）
村上 満	2017年9月4日	富山市立東部児童館職員研修	東部児童館を利用する一人ひとりが“生と活と”な東部時間を過ごすために
石倉 卓子	2017年12月4日	富山市立東部児童館	主任級職員の資質向上研修「幼児期・低学年向け エコな遊びエトセトラ」
佐部利典彦	2017年8月2日	関市子ども文化事業実行委員会	「子ども木の造形創作教室」
	2017年8月8日	郡上市図書館	図書館行事（夏休みこども向け行事）
	2017年10月5、11月2、9、16、30日、12月7、14、21、22日	岐阜市立長良東小学校	アートプロジェクトこよみのよぶね（冬至行事）における数字の巨大行灯制作ワークショップ
竹田 好美	2017年5月13日	小矢部市民生部・小矢部市保育研究会	小矢部市保育研究会第55回総会

#### (5) 平成 29 年度教員免許状更新講習

- ・内 容：必修領域・選択必修領域開講
- ・募集期間：平成 29 年 7 月 10 日（月）～7 月 19 日（水）
- ・日 程：平成 29 年 8 月 17 日（木）・18 日（金）
- ・受講者数：84 名（幼稚園教諭免許状 83 名・小学校教諭免許状 1 名）
- ・認 定 者：84 名
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701 室・702 室

#### (6) 平成 29 年度幼稚園教諭免許状特例講座

- ・内 容：必要 8 単位分の講座
- ・募集期間：平成 29 年 5 月 17 日（水）～5 月 23 日（火）
- ・日 程：平成 29 年 7 月 1 日（土）～12 月 17 日（日）の期間で 16 日間実施
- ・受講者数：67 名（内 25 名は一部講座受講者）
- ・認 定 者：67 名（取得単位数は各受講者の講座選択状況による）
- ・開催場所：富山国際大学呉羽キャンパス 子ども育成棟 701 室・702 室・E 406

## 2. 課題

#### (1) 子ども育成フォーラム・公開セミナー

子ども育成フォーラム・公開セミナーは、講師の人選、期日の決定等で学園行事や学外行事が多い時期であることから集客が難しくなっている。開催回数や、開催時期や、広報等の見直しが必要な時期にきている。

#### (2) 平成 29 年度教員免許状更新講習

平成 27 年度より講習が始まり、今年度は必修領域に加えて選択必修領域が設定された。受講対象者を主に幼稚園教諭と明記。近年受講者が急増しており、昨年までの定員 50 名から 80 名に増加させ実際の受講者は 84 名であった。今後もこの定員を予定したい。

## 8. 後援会・家庭連絡

担当【辻井 満雄】

### 1. 実績と現状

#### (1) 後援会総会・個別相談会

H29. 6 後援会総会に合わせて個別相談会が実施され、46名の相談希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、ゼミ担任などが対応した。

#### (2) 大学祭・保護者懇談会

H29. 10 第9回大学祭初日に、保護者説明会を開催し、学部と学生の概況、就職動向などについて説明した。

説明会終了後、31名の希望者及び学部からの召喚者に対して、個別の相談会を実施し、各ゼミ担任が対応した。

#### (3) 保護者あて「学生の皆さんのお概況について」の送付

H29. 5 に第17報、H29. 9 に第18報を送付して、学部の概況、各学年の学生の状況、家庭への要望事項などを記した資料を配布した。執筆は、学部長及び各学年演習担当者。

※ 別紙「第17報」及び「第18報」を参照

#### (4) その他家庭との連絡・保護者面談など

学業成績や学習態度、欠席多数などの問題、休学や退学、学外実習許可の履修要件に抵触する学生などの保護者について、適宜ゼミ担任または適応支援チームが個別面談の機会を持ち、家庭への状況説明と情報収集、連携協力依頼などを行った。

### 2. 課題

#### (1) 家庭との連絡・協力の一層の緊密化

現状では、問題発生への対処として個別相談を実施しているが、問題の予防的な意味からも、平常時からの家庭との連絡・協力をより緊密にしていく必要がある。

#### (2) 相談記録の集約・保存・引き継ぎ・活用

家庭との相談の記録、学生の状況記録などは、各ゼミ担任個人レベルでの整理・保存にとどまっており、記録の作成・引き継ぎなどについては、記録用の様式について、学部として一定の書式が確認されたが、完全なルール化と円滑な運営までには至っていない。

既存の「学生に関する調査」と一体化した上で、一括管理して、記録、保存、閲覧、引継ができるようにしていく必要がある。その際、既存の「教職カルテ」の改良と活用も含めて検討していく必要がある。

## 保護者の皆様へ 「学生の皆さんのお概況について」(第17報)

平成29年5月・子ども育成学部

### はじめに

日頃のご理解ご支援、感謝申し上げます。

開設9年目の子ども育成学部は、入学者累計810名、卒業生総数386名、平成29年度定員充足率121.8%となり、学生同士が切磋琢磨する環境が整いました。今後は、共存・共生の精神と知性を磨く教育を一層推し進めてまいります。

6月の後援会総会・個別相談会のご案内に併せて、学部と学生の皆さんのお概況についてお知らせします。保護者の皆様方には、大学での学びと生活についてご理解いただき、ご家庭での懇談や指導などの参考にしていただければ幸いに存じます。

### 2. 学生・教職員の現況 (平成29年度始めの現況)

- ・ 学生 1年生 116 2年生 87 3年生 96 4年生 103 合計 402名 (内訳) [男子 93: 女子 309] [富山 380: 新潟 9: 石川 6: 福井 2: 山形 2: 岐阜 1: 滋賀 1: 東京 1]
- ・ 教員 専任 18(教授 7・准教授 6・講師 5)、学園内兼任 16、非常勤講師 41、合計 75名
- ・ 職員 専任事務 3、兼任事務 4、契約参事 1、派遣事務 1

### 3. 第5期卒業生(89名)の就職・進学状況 (H29.4.21現在) (4期生を上回る成果を挙げました。)

- ・ 就職率 100% 小学校教諭 28 (うち講師 16)、保育士・幼稚園教諭 23、社会福祉職 20、企業 10、公務員等 3、大学院 2、専門学校 1、家事等 2
- ・ 資格/免許 小学校教諭 48 幼稚園教諭 63 保育士 56 社会福祉主任用資格 89  
社会福祉士 15(受験資格 27・合格 15(合格率全国 36位)) スクールソーシャルワーカー 3

### 4. 平成29年度の新規の取組み

- ① 「TOEIC I・II」、海外留学「インターナショナルプログラム(長期)・(短期)」、「小学校英語指導法」を設置し、英語・国際関係科の充実・強化に取組んでいます。
- ② 英語ネット教材「チエルネット」、学習ネット教材「TUINS e ラーニング」を整備し、全学生が自主的にネット等で学習に取り組めるようにしました。
- ③ 授業・行事や学生生活の様子が分かるよう、大学のホームページへの掲載に取り組んでいます。

### 5. おわりに

子ども育成学部は、「明日を担う子どもの育成を通して、地域に貢献できる人材の養成」を目的として、学生の皆さん一人ひとりの夢「なりたい自分」を叶えるための教育・研究に努めています。これまで8年間の教育実績も、高く評価され、注目されています。

今年度も、学生の皆さんの強い意志と自己向上努力を軸に、保護者の皆様方と共に歩んで参ります。今後ともご理解ご協力くださいますよう、よろしくお願ひいたします。

(子ども育成学部長 辻井満雄)

#### \*個別懇談会についてのお知らせ

- ・ 6月24日(土)の後援会総会に先立ち、ゼミ担任との個別懇談会を開催します。懇談を希望される場合は、ご遠慮なくお申し込みください。
- ・ なお、ゼミ担任(学部長)から保護者の方に、ご来談くださるよう別途お願いする場合もあります。学業成績や学生生活、学外実習の履修などについてご相談申し上げたいと存じます。
- ・ その節には、万障繰り合わせてご来場くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 1年生の概況について

「教養演習」(1年生)担当教員

新しい学生生活は、概ね順調にスタートしました。1年生の皆さんには、先輩の姿に学びながら、それぞれの目標を模索し、将来の進路を見定めていくことを期待しています。

### 1. 富山国際大学で学ぶために

- ・4月のオリエンテーションでは、学部の教育理念・目標、年間計画、教育課程・学年暦・行事予定、資格・免許などの説明を行いました。学部長からは、「あいさつ」をしっかりと行うことや目標を持っていろいろなことに「チャレンジ」すること、常に「前向きな気持ち」で学生生活を送ることについての要請がありました。
- ・初年次教育として、学長特別講義『富山国際大学の歴史と基本理念』を実施しました。学園の理念「知性・教養・個性」と大学の基本理念「共存・共生」を理解し、本学学生としての自覚を深め、勉学意欲の向上を促すと共に、「大学で学ぶとは」という学びの本質論も指導しました。

### 2. 授業など学習面について

- ・毎日の授業では、1コマ90分、夕方6時まで、毎時間の出席確認などにも慣れてきました。4月には『教養演習ガイドブック』などを教材に、ノートのとり方やレポートの書き方、5月には調査研究のための統計学などについて指導しました。2年生の先輩の経験談とともに、高校との違いを乗り越える力となればと期待します。なお、7月にはゼミ毎に進めている共同研究の成果を発表する教養演習ゼミ別合同発表会を行う予定です。
- ・5月21日（日）に全員が「第17回富山県障害者スポーツ大会」の運営補助員として参加し、真剣に働き、貴重な体験をしました。終了後の学生の爽やかな笑顔が印象的でした。
- ・8月上旬に期末試験、夏季休業は8月中旬～9月末となっていますのでご理解願います。

### 3. 生活面について

- ・各ゼミ室で、教員や学生の交流の機会を設けるなど、新入生が大学生活に馴染めるよう工夫しています。また、大学生活が順調に滑り出せるよう、ゼミ担当教員・事務職員・健康管理センター・カウンセラーなどが連携しながら適応支援に努めています。
- ・日々の授業への集中、規則正しい生活習慣と生活リズムの確立など、ご家庭でもご指導をお願いいたします。また、アルバイト等に貴重な時間を過度に割いて、折角の大学時代の意義が犠牲にならないよう、ご理解の程お願いいたします。

### 4. 就職等キャリア支援について

- ・今年も専門職求人は順調で、教員・保育士など県市町村の募集要項も順次公表されています。後期には、正課の授業科目として「キャリア入門講座」を開講します。子ども育成の職場と専門職への理解を深めながら、資格免許取得への動機付けや、今後に向けて学習への意欲を高めることを目的としています。小学校教諭、保育士、社会福祉士の第一線の先生方をお招きして、教育・保育・福祉の現場の話を学生が直接聴く機会も設けます。

### 5. 学校行事等について

- ・4月21日（金）・22日（土）の両日、砺波青少年自然の家で1・2年生によるオリエンテーション交流合宿を行いました。緑豊かな自然環境の中で、親睦と交流を深めました。
- ・4月21日（金）の午前中は、学部の学友会総会ならびに1～4学年全員参加による学部交流会（ビーチボール大会）を実施し、3・4年生とも交流しました。

□ 保護者の皆様には、今後とも一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(「教養演習」1年生担当：相山・金子)

## 2年生の概況について

「教養演習」(2年生)担当教員

2年生に進級して後輩ができたことで、授業や課外活動等において頼もしく活動する姿が見られます。一方、後輩に助言することの難しさも同時に体験しているようです。このような経験を糧に、一人一人着実に成長していくことを願っています。

### 1. 授業など学習面について

- ・ 2年次から教育・福祉・保育分野の専門科目の授業や実習指導が本格的に始まりました。
- ・ 「教養演習」では、1・2年生合同で後輩と学び合い、改めて大学生活の基本を確認しました。今後は、7月のゼミ別活動合同発表会に向けて、ゼミ毎にテーマを決めて調査・探求を行い、1年生をリードしながら研究成果をまとめていきます。
- ・ 保育士資格希望者には、9月の学外実習「保育所実習Ⅰ」(0~2歳児)に向か、事前指導を行っています。6月には現場の保育者から直接講義を受けます。また、11月の「施設実習Ⅰ」に向か、6月に児童福祉施設等の見学が予定されています。
- ・ 社会福祉士をめざす学生が「相談援助技術」を学ぶための演習も始まりました。具体的な援助場面を想定した実技指導で、専門的な技術とともにキャリア意識も深めています。

### 2. 就職等キャリア支援について

- ・ 「キャリア支援講座Ⅰ」では、各分野を自分で選択し、仕事への理解を深めたり、採用試験の概要を学んだりしています。この講座等を通して、進路を決定し、希望を実現できるよう支援していきます。分野選択(分野変更等)の悩みなどについては早めに遠慮なくお尋ねください。

### 3. 生活面について

- ・ 自家用車通学者には事故防止のための注意を喚起しております。特に、交通安全についてはご家庭でもご留意をお願いいたします。
- ・ 授業に欠席しがちな学生は、進路の迷いや友人関係の悩みを抱えている場合も多いようです。欠席回数が多いと実習の履修が許可されず資格免許の取得が困難になる、また、期末試験の受験資格を失う場合があります。ご家庭でのご支援もお願いいたします。
- ・ サークル活動が活発になってきました。新たに加入する人、リーダーとして集団をまとめる人、地域で活躍する人など、興味のある活動を通して様々なことを学ぶ機会となっています。授業や実習の合間を縫っての活動ですが、自己実現を支援していきたいと思います。
- ・ 夜遅くのアルバイトは控えるよう指導しています。基本は「学業が最優先」ですので、ご家庭でも、実情把握と適切なご指導をお願いいたします。

### 4. 学校行事について

- ・ 4月21日(金)・22日(土)のオリエンテーション交流合宿は、2年生の実行委員を中心に準備を進め、企画運営の経験を積む好機ともなりました。初日は全学年が参加した学友会総会とともにスポーツによる学部交流会も行われ、親睦と交流を深めました。

- 2年生は、実習などを通じて卒業後の進路を真剣に考え、絞っていく学年でもあります。保護者の皆様には、一層のご理解ご支援をくださいますようお願い申し上げます。

## 3年生の概況について

「卒業研究」（3年生）担当教員

4年間の大学生活は、既に折り返しを過ぎて後半に入りました。

卒業後の進路を決定する時期が迫ってきたことで不安になっている姿も見られますが、先輩たちを見習い、毎日地道な努力を続けてほしいものです。残りの学生生活が有意義なものとなるよう願っています。

### 1. 学外実習について

- ・ 9月には、15日間の「小学校教育実習」及び「幼稚園教育実習Ⅱ」を行います。  
小学校教育実習に向けては、授業「教科教育法」での教材研究や指導案づくり、模擬授業など、主要教科目の専任教員による体制が整って、より充実した指導が行われています。  
幼稚園教育実習Ⅱに向けては、内諾実習園の教育目標や9月の児童の生活について学びながら、15日間の実習で多くの学びが得られるよう日々と準備を進めています。毎回実習日誌を記入したり、模擬保育での指導案作成や教材研究を行ったりしながら、実践力をつけていきます。
- ・ 社会福祉分野では、3年次2~3月の「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」（25日間かつ180時間）のための演習などを積み重ねつつ、社会福祉士国家試験に向けた準備も着実にスタートさせています。
- ・ 実際の子ども達の様子をもっと直接知りたいと、「富山に学ぶインターンシップ」体験、「自主研修」制度などを活用して、小学校・幼稚園・保育所・施設などに出かける学生もあります。直接子どもと触れ合う中での体験は、学び深きものとなっています。
- ・ 充実した実習のためには、日常の健康管理が大切です。ボランティア活動やアルバイトなどから得る学びもありますが、大学での系統的な学習が第一であることを忘れず、学業を最優先に考えて、生活リズムを整えていくことを奨励しています。

### 2. 卒業研究について

- ・ 本学では、3~4年次の2年間で「卒業研究」を行います。3年生は4月からそれぞれの専門分野に分かれて卒業論文作成の準備をスタートしました。なかなかテーマを絞りきれない学生が多いようです。しかし、さまざまな先行研究を調べていくうちに自ずと研究したい命題が出てくるはずです。
- ・ 3年次の後期に、卒業論文の中間発表を行います。研究テーマや研究計画などについてポスター発表を行いますので、大学祭の時にご覧いただきたいと思います。

4年次には、「卒業研究」に取り組んだ成果の総まとめとして、卒業研究発表会が予定されています。

### 3. キャリア支援について

- ・ 小学校・保育・社会福祉分野の専門職を目指す「キャリア支援講座Ⅱ」が、前期は火曜5限に開講されています。また、一般企業や公務員などをを目指す学生にも、東黒牧キャンパス・キャリア支援センターと協力して、授業外ですが、就職支援講座を提供しています。
- ・ 小学校分野では教員採用試験対策、保育分野では公立および私立保育所・幼稚園・こども園の採用試験対策、社会福祉分野では国家試験に向けた対策をスタートしました。

- 3年生は、最終学年につながる大事な学年です。ご家庭でも一層の励ましをお願い申し上げます。

（「卒業研究」3年生担当：大平・佐部利）

## 4年生の概況について

「卒業研究」「キャリア支援」(4年生) 担当教員

子ども育成学部での学びもいよいよ最終年度を迎えました。4年生は、これまでに得た専門的知識と実践力を深めつつ、それぞれが描く未来に向けて一歩ずつ進んでいます。

### 1. 授業など学習面について

- ・ 4年生の教育課程は、社会福祉関係科目に重点が置かれていますが、卒業に必要な科目・単位、資格免許に必要な科目・単位を修得できているか、折に触れ確認が必要です。
- ・ 資格や就職のための授業履修にとどまらず、教養を深めるまたとない機会です。積極的かつ意欲的な学びで視野を広げていきましょう。

### 2. 卒業研究について

- ・ 3年生から2年間にわたり開講される「卒業研究」では、自ら選択した分野の知識や技能を高めながら研究テーマを決定し、卒業論文の完成に向けて指導しています。昨年まで、卒業論文の提出は年明けの1月でしたが、今年度から12月に日程を変更しました。  
提出時期が早くなつたため、各自、計画的に作業を進める必要があります。
- ・ 卒業論文の提出が終わると、来年1月には「卒業研究要旨集」のための原稿提出、2月には卒業研究発表会が続きます。研究テーマにとことん向き合い、4年間の学びの集大成となる研究物を発表してくれることを期待しています。

### 3. 就職・進学・キャリア支援について

- ・ 今年度も、昨年度を上回る求人が見込まれています。  
3・4年生全員には、その都度、一斉メールで【求人速報】を配信しています。受験予定者に対する個別相談、履歴書・面接指導にも時間をかけ丁寧に取り組んでいます。是非、ご家庭でも関心をもっていただき、確かな就職や進学の実現に向けて、慎重かつ適切な対応をお願いいたします。
- ・ 小学校分野では、本番に向けた模擬試験、集団面接、採用試験直前の専門・教職教養の演習等に取り組んでいます。  
7月22~23日の富山県小学校教員採用試験には、44名が出願する予定です。
- ・ 保育分野では、6月25日~7月23日の市町村保育士採用1次試験をはじめ、民間からの求人が多数寄せられており、模擬試験や集団・個人模擬面接などの指導を行っています。  
7月に開催される福祉職場説明会への準備も進めています。
- ・ 福祉分野では、希望職種に応じて個別に指導しています。5月に富山県健康・福祉人材センターの求職者登録を済ませ、7月から福祉職場説明会にも参加します。
- ・ 一般公務員・企業を希望する学生に対しては、希望職種に応じて専門のアドバイザーによる模擬面接の指導や就職情報、採用試験に向けた支援を個別に行ってています。
- ・ 5月15日現在、希望進路の状況（一部重複希望あり）は、小学校教諭43名、幼稚園教諭・保育教諭・保育所保育士34名、社会福祉関係18名、企業等6名となっています。

□ 学生生活最後の学年が、思い出深く、また実り豊かな1年となりますよう、保護者の皆様方とご一緒に支援して参りたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(「卒業研究」4年生担当：彼谷・松山)

平成29年度も後半を迎えます。夏季休業中には、全国大会出場した女子野球やボランティア活動、地域に貢献した研究活動やサークル活動、韓国やタイの研修旅行、富山県青年議会研修など積極的に活動する学生を見ました。また、4年生は小学校・保育・福祉の就職試験や卒業研究、2・3年生は保育所・幼稚園・小学校実習、1年生は地域社会参加活動に取り組みました。

## 1 就職・進学・キャリア支援について

- 4年生では、小学校教員19名、保育士12名、福祉分野11名、公務員1名、企業7名の合格・内定・内々定が出ています(9月20日現在)。今後、小学校は臨任講師への道、保育士は公立(富山・黒部・砺波等)2次試験や民間保育所の採用試験、福祉は民間福祉・医療事業所の採用試験や国家試験対策など、それぞれの目標に向かって最後の踏ん張りどころです。企業も含め、ゼミ担任や各分野の担当教員にご相談下さい。
- 3年生は、後期から「キャリア支援講座」を分野別に集中的に指導します。採用試験まであと半年余り。実習の成果を振り返りながら、「成りたい自分」へ対策開始です。
- 2年生は、後期から専門職関連の授業が多く開講されます。日々の授業、実習の事前事後学習への専心が重要です。
- 1年生は、後期から「キャリア入門講座」を開講します。①小学校教諭、②幼稚園教諭・保育士、③社会福祉士の3分野の進路選択について、学習します。3分野について、ご家庭でも十分に話し合われますようお願いします。

## 2 学習面について

- 前期(4~9月)の学業成績を同封しております。一部の学年や科目で、再試験対象者がいました。成績不振のため実習を延期する場合は、保護者の方とも個別相談をさせていただきます。日頃の学習の大切さについて十分ご理解願います。なお、後期より、29年度生2名が休学になりました。
- 教員・保育士・社会福祉士など子ども育成の専門家への道は、容易ではありません。実習先・就職先など社会の注目と期待は、極めて強く厳しいものがあります。日頃から「学びの精神」をもって、授業・予習・復習・課題などに地道に取り組むことが、確かな就職に繋がります。また、地元の将来を担ってくれる人材として、地元から大きな期待が寄せられています。生活リズムを崩す過度のアルバイトや活動などで、学生生活を貧しくしてしまわないよう、ご家庭でも責任あるご指導をお願いします。

## 3 進路・学習・生活面での相談支援について

- 相談支援の窓口は、①ゼミ担任、②科目担当教員、③実習担当教員、④キャリア支援担当、⑤事務室、⑥健康管理センターなど多様にあります。また、⑦メール相談、⑧学友会役員を通しての要望・相談なども可能です。早めの相談をお待ちしています。
- この時期、授業や実習等をめぐり、自分の適性や進路選択の悩みなど様々な思いが交錯します。保護者の皆様には、適切な助言などご協力を願い申し上げます。

## 4 第9回大学祭と保護者懇談会

- 10月21・22日開催の第9回大学祭のうち、21日の保護者懇談会では、就職などの説明を行います。大勢の保護者の皆様のご来校をお待ちしております。

(学部長:辻井満雄)

大学生になって初めての夏休みも終わり、後期がいよいよ始まります。後期では、専門的な学習や実習が本格化しますので、気持ちを引き締めながら学習に臨んでほしいと思います。

保護者の皆様には、今後とも学習面、生活面にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 1 学習面・生活面について

- 大学の授業では、資格免許を取得するための履修科目を自分で選び、その授業内容を確実に理解し、身に付けるために、授業の準備や自主的な学習等が大切です。一部の学生の中には体調不良や寝不足等による遅刻や欠席がありました。自分でスケジュールを管理し、授業に集中できる規則正しい生活習慣と生活リズムが身に付くよう、ご家庭でも引き続きご指導をお願い致します。また、アルバイト等に過度に割いて、折角の大学で学ぶ意義が犠牲にならないよう、ご理解の程お願いいたします。
- 卒業必修科目に、「教養演習」という1・2年生合同で行う授業があります。前期には、各ゼミ別に研究テーマを決め調査・探究活動を行い、7月に「ゼミ別活動合同発表会」で研究発表をしました。「郷土のことば」「自由研究に」「子どもの運動嫌い」「知育菓子」「集中力アップ法」等、専門分野の内容を意識したテーマについてプレゼンテーションが行われました。後期では、個人別課題研究に取り組み、関心のある分野への研究アプローチを通して、専門分野の知識を自主的に深める取り組みがスタートします。
- 前期は、心理学、経済学、教育原理、日本国憲法など子ども育成の基本科目に加えて、大学生としての教養を身に付ける科目がほとんどでした。どの科目においても自分の学びを深めようとする意欲が旺盛で、授業終了後に、多くの学生が担当教員に個人的に質問しようと列をなす光景が見られました。これは、1年生の皆さんのが受け身ではなく、自ら課題をもって毎日を過ごしている証拠です。この姿勢を大変にして、後期もこれから始まる専門的な学習にも意欲的に臨んでいってほしいです。

## 2 キャリア支援について

- 小学校、幼稚園・保育所、社会福祉など各分野に向けた「キャリア入門講座」が、後期から卒業必修科目の授業として始まり、計画的にキャリア形成ができるよう1年次から指導します。「キャリア入門講座」の中では、小学校教諭、保育士、社会福祉士の現場で活躍されている方をお招きして、それぞれの現場の話を直接聴く機会を設けます。専門職への理解を深めながら、資格免許取得への動機付けと、学習への意欲を高めることを目的としています。ご家庭でも、将来の方向性について、是非この時期から話題にしていただきたいと思います。

## 3 専門的学習や実習に向けて

- 11/6(月)～11/10(金)に「幼稚園教育実習Ⅰ」が行われます。いよいよ専門的な学習や実習が本格化します。社会人としての必要なマナーを身につけながら、専門職の素晴らしさや厳しさを体験する初めての機会です。
- 日々の講義で多くの分野について幅広く学びながらも、自分の目指す道を決めていく時期です。これからも教職員一同、全力で教育・指導に努めてまいりますので保護者の皆様には、今後とも一層のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(担当：金子・相山)

### 2年生の概況について

「教養演習」(2年生)担当教員

夏季休業も終わり、後期の授業・活動に向けて学生たちはそれぞれ準備を始めています。

保護者の皆様には、以下の点にご理解とご協力を下さいますようお願ひいたします。

## 1 授業・学習面について

- ・ 8月末に、幼稚園教諭・保育士・小学校教諭の資格免許科目の体育の学外授業が、行われました。体育は、卒業必修科目にもなっており、陸上競技場や市民プールにおいて、2年生全員が幼児・児童の体育指導法について、体験を通して学びました。
- ・ 授業を6回欠席しますと、期末試験の受験資格がなくなり、単位が取得できません。卒業や資格取得にもかかわる問題ですので、ご家庭でもご指導をお願いいたします。

## 2 実習・キャリア支援について

- ・ 実習を通して、自分の進む進路をより明確にしていきます。なお、実習の履修要件（健康状態、授業・生活態度、成績等）を満たさなければ、原則として実習に行くことはできません。2年生の成績・態度は、2年次・3年次の実習に大きく影響します。授業に取り組む姿勢、生活態度、健康管理等に十分留意するよう学生に指導していきます。
- ・ 保育士資格取得希望者は、9月に10日間の「保育所実習I」(9/4~9/15)を終えました。その後、10/27(金)に行われる「保育所実習I報告会」に向けて、振り返りをします。また、保育士資格科目である「施設実習I」(11/6~11/17)は、富山県内の児童福祉施設等で実施します。すでに配属先が決定しておりますので、目的意識を再確認し、事前学習及び体調管理に努め、実習に臨んでいただければと願っています。
- ・ 小学校教諭一種免許状取得希望者は、来年9月の「小学校教育実習」(3年次)に向けて、夏季休業中から母校等へ実習依頼に出向き、手続きを進めています。また、免許状取得のために3年次には、「介護等体験」(特別支援学校2日間・社会福祉施設等5日間)に出かけます。今から、実習への心づもりをして欲しいと思います。
- ・ 後期には、3年次前期に行われる「幼稚園教育実習II」の履修希望調査が始まります。幼稚園教諭一種免許状の取得について、ゼミ担当教員や科目担当教員と相談しながら手続きを進めています。
- ・ 「キャリア支援講座I」は、3分野から希望する分野に分かれて授業を行っています。小学校分野では教員採用試験で過去に出題された問題や集団討論の練習を、保育分野では製作した保育教材を使用しての実演や個人面接の練習を、社会福祉分野では社会保障の基礎など社会福祉に関わる様々な課題について考える機会をもっています。進路に悩んでいる学生も見られますので、ご家庭でのご支援をお願いいたします。

## 3 授業外の活動・生活面について

- ・ オープンキャンパス(7・8月)では、学友会の2年生が中心となって、大学生活の紹介を行うなど様々な係を通して、多くの高校生と触れ合う機会となりました。
- ・ 第9回大学祭に向けて、2年生を中心とした大学祭実行委員が、前期から準備を進めています。様々な困難を乗り越え、達成する力を養う機会となることが期待されます。
- ・ 2年生は、自家用車通学が多いため、交通事故防止のための注意喚起を行っております。ご家庭でも引き続きご指導をお願いいたします。

(担当：室林・石倉)

### 3年生の概況について

「卒業研究I」(3年生) 担当教員

夏季休業は、学外実習や卒業論文中間発表の準備で、忙しくも充実した期間であったと思います。10月に開催される大学祭では、クラブ・サークルの活動発表や模擬店の運営など、中心となって活躍する学年もあります。同時に、卒業後の進路を具体的に思い描き、計画的実践的に取

り組む時期にも入りました。

## 1 学外実習について

- ・ 3週間（15日間）の「小学校教育実習」と「幼稚園教育実習Ⅱ」が、夏季休業中に行われました。実習指導教員やゼミ担当教員は、訪問指導に出かけました。頑張っている学生を励まし、現場の先生方と詳細に情報交換を行いました。小学校実習では、教諭としての仕事を体験しながら、多くの先生方からご指導頂ける研究授業を通じて、指導することの難しさと責任の重さを感じていました。幼稚園実習では、運動会等の秋の行事を準備する中で、子どもの年齢に応じた支援の仕方や指導の方法を学んでいました。実習日誌には学びがびっしりと書いてあり、子どもたちとの出会いや思い出・体験等を基に、今後は、自らの適性に合った進路先を決定していくと思われます。大学生活後半を有意義に過ごせるよう教職員一同、支援してまいります。
- ・ 社会福祉分野では、2~3月に「相談援助実習Ⅰ・Ⅱ」（25日間・180時間）が行われます。寒い季節、長期間にわたる実習となりますので、気力体力を充実させて臨めるよう、ご家族のご支援もお願いしたいと思います。また、4年次に行われる社会福祉国家試験に向けた準備も進め、しっかりと支援や応援をしていきます。

## 2 「卒業研究Ⅰ」について

- ・ 今年の4月から卒業研究ゼミに配属された3年生は、前期に「卒業研究とはなにか」、「どのようなテーマを追究するのか」等を考えてきました。2年間学びを共にするゼミ担当教員やゼミ学生らと、これまでの自己の研究の歩みを点検したうえで、卒業論文のテーマを明確にし、文献・資料収集や調査の方法などをポスターにまとめ、10月の大学祭において中間発表を行います。大学祭へご来学の折には、是非ご覧いただき、ご意見ご感想をお寄せいただければ、学生の励みにもなると思います。
- ・ 4年次では、授業や6月の実習（保育所実習Ⅱ／施設実習Ⅱ）と並行して、採用試験の準備や就職活動に多くの時間が割かれます。その分、卒業研究への時間は少なくなりますので、計画的に就職活動と卒論作成の両方に取り組むよう指導してまいります。

## 3 キャリア支援（就職・進学）について

- ・ 通年科目である「キャリア支援講座Ⅱ」で、小学校教諭、幼稚園教諭・保育士、社会福祉士、一般企業の中から希望する講座を受講しています。後期には、模擬面接や集団討論等、より実践的なプログラムに取り組むため、東黒牧キャンパスのキャリアカウンセラーの協力も得て、指導体制を充実させてまいります。
- ・「富山に学ぶインターンシップ」（3・4年次開講科目）では、教育・保育・福祉の実践現場での就業体験を行っています。専門職のあり方について考える機会でもあります。
- ・ 4年生に進級すると、まもなく採用試験が始まります。教育・保育・福祉の各分野で、昨年以上に先輩たちの採用試験合格や就職活動の成果が聞こえてきます。成功をつかむには、明確な目標に向かって地道な努力と体調管理が大切です。保護者の皆様には、引き続き、学生の生活状況の把握、日々の励まし等をお願いいたします。

（担当：佐部利・大平・彼谷）

### 4年生の概況について

「卒業研究Ⅱ」（4年生）担当教員

卒業まで残り半年を切りました。大学生活4年間の総まとめとなる4年次後期が、いよいよ始まります。4年生一人ひとりにとって、卒業後の進路に向けた大切な時期になることへの自覚が求められます。

## 1 キャリア支援（就職・進学）について

- ・ 富山県小学校教員採用選考検査では4年生30名が1次試験に合格し、卒業生14名を合わせた44名がお盆休み返上で、2次試験に向けた特別講座に取り組みました。その結果、4年生19名、卒業生11名が合格しました。さらに、山形県公立学校教員1次試験に1名が合格し、結果の発表を待っています。保育士・幼稚園教諭採用試験では、公立6名・民間6名（9月20日現在）がすでに内定を得ています。社会福祉関係では、市町村職員採用試験や民間の社会福祉施設採用試験で11名が内定しています。公務員1名、一般企業では6名が内定を得ています。
- ・ 保育士・幼稚園教諭、社会福祉士では、求人が多く出されています。学部では、キャリア支援センターから求人情報について一斉メール速報で提供し、ゼミ担当教員を中心となり、教育・保育・福祉・企業等の各分野担当と連携をとりながら支援しています。就職は、後になればなるほど採用条件が厳しくなりますので、早めに見学・応募することが重要です。ご家庭でのお声かけをよろしくお願ひいたします。
- ・ 後期には、社会福祉士国家試験受験者を対象に「キャリア支援講座Ⅲ」が開講されます。2月4日の国家試験に向けて、最終的な受験体制に入ります。当日の試験は、午前・午後合わせて4時間の長丁場です。知力はもとより、体力と気力が不可欠となることから、万全の体調管理が求められます。保護者の皆さまの温かい励ましが大きな力になることと思いますので、引き続き、ご協力をお願ひいたします。
- ・ 「富山に学ぶインターンシップ」（3・4年次開講科目）では、教育・保育・福祉の実践現場での就業体験を行っています。卒業を前に、専門職のあり方について考える最後の機会でもあります。
- ・ 教員一同、学生一人ひとりの「なりたい自分になる」ためのサポートを行っています。保護者の皆様には、生活状況の把握、健康への留意、励まし等をお願いするとともに、ご質問やご相談につきましては、先ず、ゼミ担当教員へのご連絡をお願いいたします。

## 2 卒業研究Ⅱについて

- ・ 卒業研究Ⅱは、4年間の学習や活動の集大成です。12月下旬の卒業論文提出締切（12/22～12/26）に向けて、一人ひとりが、教育・保育・福祉の分野等を中心に、それぞれのテーマに関する研究を進めています。
- ・ 卒業研究発表会は、2月10日（土）に開催されます。授業、実習、就職活動と忙しく過ごしているうちに、残り時間もわずかとなりました。卒業研究は極めて創造的な作業で、将来どの職業に就いてもこの体験は必ず役に立つと思います。

保護者の皆様には、卒論完成まで温かく見守って頂きますと共に、学生の発表をぜひご覧いただきたいとお願ひいたします。

（担当：松山・彼谷）

## 9. 研究活動

担当【福島 美枝子】

### 1. 実績と現状

#### (1) 紀要

平成29年度より前期1号、後期2号として、2つの号を発行した。「富山国際大学子ども育成学部紀要第9巻第1号」(2017年10月)では4篇、「同 第2号」(2018年3月)では10編、計14篇の投稿があった。

#### 第1号

【論文】 彼谷 環 「政治と雇用の分野における多様性の推進と憲法的課題」

河崎美香・石倉卓子「心理検査を用いた特別な支援を要する児童の理解と個別の指導計画への生かし方の検討」

河崎美香・石倉卓子「保育者の「気になる」幼児の理解と援助に関する意識調査—巡回相談カンファレンスにおける逐語記録から—」

吉田昌弘 「森有礼文相における「学政」・「教育」と教師・家庭」

#### 第2号

【論文】 大藪敏宏 「総合的な学習の時間の指導法と学習指導要領における「新聞」の4概念—変容するネット社会における「主体的・対話的で深い学びとNIE」

佐部利典彦「被災地でアートにできること」

仲井文之 「山田孝雄にとっての篠山に関する一考察」

福島美枝子 English for Elementary School Teachers in Japan: Ways of Enriching Teachers' Experience in Learning and Using English.

堀江英一 「富山県の校歌—調性・音域・ヨナ抜き音階の観点から—」

瀬戸健・水上義行「子どもの言語表現を高める生活科と国語科の合科的指導に関する事例的研究—見通しと振り返りの視点から—」

瀬戸健・水上義行「生活科・総合的な学習を中心とした学校カリキュラムの開発—教職大学院の学校支援プロジェクトの事例から—」

瀬戸健・水上義行「記述が不十分な小学校社会科教科書を補う教材研究とは—小学校第6学年の歴史教材を例に—」

【研究ノート】相山 馨 「仕事と介護の両立を支援する小規模多機能型居宅介護におけるケアマネジメント実践」

室林孝嗣 「相談支援の質を高めるストレングスモデルの取り組み—N自立支援協議会におけるグループスーパービジョン」

#### (2) 助成研究への取り組み

① 文部科学省学術研究助成基金（科学研究費補助金）

石倉卓子 「認定子ども園における遊びの質を保障する園庭環境評価基準（幼児版）の試案作成」(H27~29年度)

大平泰子「青年期の双極性障害における自傷行為の機序に関する研究」(H27~29年度)  
水上義行「学校のパフォーマンスと教員のメンタルヘルスに関する実証的研究」(H28~  
30年度)

② (財)富山第一銀行奨学財団助成研究

仲井文之「山田孝雄博士の足跡と国語教育」(H29年度)

相山 馨「介護離職防止を目的としたケアマネジメント実践の検討」(H29年度)

堀江英一「調性・音階からみた富山県の校歌に関する研究」(H29年度)

村上 満「地域活性化のための大学における知的資源の提供」(H29年度)

(3) 研究交流サロン

第16回研究交流サロン 佐部利典彦講師ワークショップ (H30年3月13日)

「陶芸の活動において、参加者が多様な表現を創作する支援の方法」

(4) ニュース・レター「子ども育成研究」の発行

「子ども育成研究第15号」(H29年10月) : 第9回子ども育成フォーラム報告および  
教員の研究活動の紹介

「子ども育成研究第16号」(H30年3月) : 第9回公開セミナー報告

(5) 学生の研究活動

「小学校教育研究会」(タイズ)では、二瓶弘行氏(筑波大学附属小学校教諭)による講演、「最高の教材で最高の「言葉の力」を育む授業」(H30年1月27日~富山県寄附講義)の運営に当たり、本学学生だけではなく外部から多くの参加者を得て盛会となった。「保育サークルにこにこ」では、にながわ保育園で子どもたちのために劇をして実践面の研究を行なった。

## 2. 課題

(1) 紀要の発行

教員13名から14編の投稿があった。1年に2回出版することになったが、学部内の投稿総数はこれまでと変わりがない。第1号(10月発行)への投稿数が少ないことを、来年度に向けての課題と見做すことができる。

(2) 研究助成の競争的資金獲得への取り組み

① 文部科学省学術研究助成基金(科学研究費補助金)

平成29年度の子ども育成学部では、計3件の研究が行われた。いずれも過年度に採用された研究であり、新規採用はなかった。今後の発展に向けて教員の積極的な応募が不可欠である。各教員の意欲と研鑽に依って応募が可能となり、採用の可能性が出てくるので、それらを醸成できる職場の環境づくりが肝要である。

② (財)富山第一銀行奨学財団助成研究

次年度7月に行なわれる財団主催の発表会では相山馨准教授が発表の予定である。その他3件のうち2件は本学部の紀要において成果が発表された。今後もこうした公表の機会を持ち、本学部教員の研究の様子が広く知られるようになることが望ましい。

(3) 研究交流サロン

教員の多忙による日程調整の難しさがあり、年1回の実施が定着している。今後も、これまでに発表をしていない教員や新任の教員の積極的な発表に期待したい。

#### (4) 学生の研究活動

これまでと同様に分野別の活動が行なわれており、当初の構想にあった「子ども育成学会」の構築にはつながっていない。全体的に、県内のインターンシップや地域の子ども達や人々を対象にした学生主導の事業等を通して実践的な学びを深めていると言えるだろう。学生達が研究の成果を学外で発表する機会は少ないようと思われる。

## 10. その他

担当〔南 佳克〕

### 1. 実績と現状

#### (1) 子ども育成学部学位記授与式

- ・ 第6期生101名卒業：平成30年3月20日(火)10:00～、富山国際会議場3階ホール

#### (2) E館研究室床補修工事

ここ数年、経年劣化による一部研究室床面の剥がれ等の損傷が目立っていたことから、補修工事を行った。(平成29年9月)

#### (3) 平成29年度 富山国際大学・富山短期大学 幼稚園教諭免許状特例講座

認定こども園法改正・施行により、平成27年4月から5年間に限り、幼稚園教諭の普通免許状に係る所有資格の期限付特例が実施されることの伴い、富山短期大学幼児教育学科との連携により開催し、8単位分を開講した。

- ・ 開講講座：「教職の意義等」(2単位)、「教職に関する制度的・社会的事項」(2単位)、「教育課程論」(2単位)「保育内容指導法及び教育方法・技術」(2単位)、「幼児理解」(2単位)
- ・ 開講期間：平成29年7月1日～平成29年12月17日の間の土・日曜日計16日間
- ・ 会 場：富山国際大学・富山短期大学 吾羽キャンパス
- ・ 受 講 生：66名

### 2. 課題

#### (1) 教具・備品、施設・設備等の故障・修繕の増加

特に近年は高額な空調設備機器の故障が目立つようになってきている。又、教室設置型のプロジェクターは平成30年度中に全て部品供給補償期間が終了することから、更新が必要となる。

#### (2) 車椅子利用者に配慮したE館ドアのスライドドアへの改修

玄関前へのシェルター設置

#### (3) 学生数増加に伴う教室不足とその対応。アメニティー空間、学習環境の整備

#### (4) 吾羽キャンパス各機関との各種調整（時間割、施設使用、行事日程等）

## 11. 将来構想

担当【辻井 満雄】

### 1. 実績と現状

#### (1) 子ども育成学部アクションプランの策定

- ① 全学のアクションプラン（H26～29）に対応した取り組み

平成25年度末に全学のアクションプランが策定され、子ども育成学部においても、策定に向けた検討を行い、具体的な活動計画（3カ年計画）については、26年度当初に策定し、全学のプランに組み込まれたが、1年間延長し、4カ年計画となった。

- ② 子ども育成学部の各部署の新規・重点事項の設定

アクションプランに呼応しつつ、学部内の各部署の新規・重点事項の設定について検討した。26年4月に、「平成26年度 各委員会の事業計画（主な所管事項、重点・新規事項）」（[参考3]を参照）を策定したものに基づいて、実施に向けて取り組んだ。

#### (2) 「子ども育成学部第2期運営計画（中間まとめ）」とアクションプラン等の整合性

子ども育成学部では、平成24年8月に「第2期運営計画（中間まとめ）」を策定し、平成24年度から26年度にかけて、その実現に向けて改革に取り組んできた。27年度は新教育課程の実施に取り組んだ。

- ① 29年度新教育課程の実施3年目

26年度の改革された新教育課程による授業に取り組み、充実を目指した。

- ② 教員組織の再編成

28年度より1名減の人員で実施した。

- ③ 学生支援の充実

学友会・サークル活動・同窓会活動など学生支援を強化してきたが、同窓会子ども育成学部支部は結成されたばかりであり、特段の支援が必要である。

- ④ キャリア支援の充実・体系化

26年度新課程から正規科目として実施した。26年度必修科目「キャリア入門講座」、27年度選択科目「キャリア支援講座Ⅰ」、28年度選択科目「キャリア支援講座Ⅱ」、29年度選択科目「キャリア支援講座Ⅲ」となり、すべての学年で正規科目として実施した。

- ⑤ 研究・交流事業（子ども育成研究交流センター）の強化

学内学会設立への動きは、依然小学校分野にとどまっており、保育分野、福祉分野での設立に向けた支援強化が必要である。

- ⑥ 実習環境の整備

実習事務担当者の配置は未達成である。配置は、困難な状況が続いている。実習協力園の確保については、「幼稚園教育実習Ⅰ」の学外実習協力園は、射水市教育委員会の協力により、射水市立大門わかば幼稚園を新規に開拓できた。

#### (3) 「子ども育成学部の教育課程」の一部変更

- ① 教職課程認定申請（平成31年度開設・再課程認定）

平成28年11月に教職免許法の改正により、平成31年4月より新教職課程が開設され

るので、改めて平成 30 年度中に認定・指定を受けることになった。今年度中に申請書類を揃えて提出のため、平成 31 年度を見越して学則変更等や教員配置計画を進める必要があり、「再課程資料作成チーム」を中心に資料作り進めてきた。平成 30 年 4 月 16 日に申請書を提出できた。

また、平成 29 年 5 月より、厚生労働省において、「保育士養成課程等検討会」が設置され、保育を取り巻く社会情勢の変化、保育所保育指針の改定を踏まえ、より実践力のある保育士の養成に向けて、平成 31 年度より保育士養成課程が見直しされることになり、具体的に見直しの方向性として「乳児保育の充実」「幼児教育を行う施設としての保育の実践」「養護の視点を踏まえた実践力の向上」「子どもの育ちや家庭への支援の充実」「社会的養護や障害児保育の充実」「保育者としての資質の専門性の向上」が示されたことを受け、科目の新設・変更、保育士養成課程科目の見直しを行った。次年度 9 月までの提出を見越し、準備を進めている。

## 2. 課題

### (1) アクションプラン等の実施と PDCA サイクル化

アクションプラン（全学・学部）と、それとの関連で学部各部門の行動計画や重点的に取り組む事項についても、確実に実施して PDCA サイクル化していかなければならない。

### (2) 学園創立 50 周年以降の中長期的構想

本学園は、昭和 38 年に地域密着型の学園（旧.学校法人富山女子短期大学）として設立された。創立 50 周年の平成 25 年以降の経営戦略・計画は、現在のところ不透明である。

北陸新幹線の影響で、北信越・関東地区の諸大学との競争激化も見込まれる中で、子ども育成学部の将来を確かなものにするためにも、学園の中長期的な構想を積極的に検討していくかなければならない。

### (3) 子ども育成学部の中長期的構想

平成 29 年度は新入生の 116 名対応のため、検討は行わなかった。現代社会学部で将来計画が検討され、英語国際キャリア専攻が新設された。